

2018年（平成30年度）



海上保安学校学生（9月）

基礎能力試験の問題と解答



問1 本店の所在場所がX県にある全ての会社について調査したところ、従業員数が50人以上の会社は、X県外に支店があり、かつ、業種が製造業であることが分かった。このとき、論理的に確実にいえるのはどれか。

- 1.X県外に支店がある会社は、業種が製造業である。
- 2.X県外に支店があり、業種が製造業である会社は、従業員数が50人以上である。
- 3.X県外に支店はあるが、業種が製造業ではない会社は、従業員数が50人未満である。
- 4.X県外に支店がなく、業種も製造業ではないが、従業員数が50人以上の会社がある。
- 5.従業員数が50人未満の会社は、X県外に支店がなく、業種も製造業ではない。

問2 A～Eの5人の生徒が1500メートル走を行ったところ、1位の生徒から10秒間隔で順次ゴールした。次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- ・A～Eのうち、X高校の生徒は3人、Y高校の生徒は2人である。
- ・Eの順位はAより下位であり、また、Eのタイムは5人のタイムの平均より短かった。
- ・DはX高校の生徒であり、また、Dの順位はBより上位であった。
- ・1位と5位の生徒は、同じ高校の生徒であった。
- ・Y高校の生徒2人のタイムの平均は、X高校の生徒3人のタイムの平均より短かった。

- 1.Aは、Y高校の生徒である。
- 2.Bは、4位であった。
- 3.Cは、X高校の生徒である。
- 4.Dは、3位であった。
- 5.Eは、Y高校の生徒である。

問3 ある店でアルバイトをしている、A～Dの4人の専門学校生とE、Fの2人の大学生の合計6人がある日のアルバイトのシフトを決めることとした。この店のアルバイトのシフトは、午前、午後、夜間の三つの時間帯に分かれており、それぞれの時間帯のシフトに、A～Fのうち、1人以上が割り当てられている。専門学校生と大学生が同じ時間帯のシフトとならないようにするとき、シフトの割当て方は全部で何通りか。ただし、A～F全員がその日のシフトに、1回だけ割り当てられるものとする。

1.24 通り

2.32 通り

3.40 通り

4.48 通り

5.56 通り

問4 AとBは、同時に折り紙で鶴を折り始めた。Aは10分に5羽の速さで鶴を折り続けたが、あるとき3分間休憩し、その後は自分が折った鶴を1分に1羽の速さでひもに通し続けた。一方、Bは、10分に3羽の速さで鶴を折り続けた。Aが折った鶴のうち、Aがひもに通していない鶴の数とBが折った鶴の数は、2人が鶴を折り始めてから60分後に同数になった。このとき、Aが折った鶴の数は何羽か。ただし、AとBが鶴を折る速さや、Aが鶴をひもに通す速さは、それぞれ一定であるものとする。

1.21 羽

2.23 羽

3.25 羽

4.27 羽

5.29 羽

問5 表は、ある町内の50世帯につきえ、1年間に送った荷物と受け取った荷物の個数を
 相関表にしたものである。これから確実にいえるのはどれか。

(個)											1
10											
9					1						
受					1				1		
け						1		1			
取			1			1	1				
っ			1	1	1						
た		1		1					1		
荷		5	5	1	1						
物		7	4	1	2						
1		5	3								
0							1				
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (個)
	送った荷物										

- 1.送った荷物の個数と受け取った荷物の個数の差は、どの世帯も4個以下である。
- 2.送った荷物の個数が受け取った荷物の個数以上の世帯の数は、25世帯以上である。
- 3.送った荷物の個数と受け取った荷物の個数が共に5個以上の世帯の数は、5世帯である。
- 4.送った荷物の個数と受け取った荷物の個数の合計が5個以上の世帯の数は、25世帯以下である。
- 5.送った荷物の個数が5個以上の世帯についてみると、受け取った荷物の個数は、1世帯当たり6.5個である。

問6 地震に関する記述として最も妥当なのはどれか。

- 1.海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む正断層の地震の場合、本震に先立って前震と呼ばれる地震が起こることがあるが、本震発生後は直ちに収束し、関連する地震は見られない。
- 2.海底近くで発生する大地震の場合、海底が隆起・沈降することによって津波が生じるが、津波が進む速さはP波が進む速さと等しい。
- 3.地球表面を覆うプレートは、いくつかの地域に分かれており、世界的にみると、各プレートの境界部よりも中央部で巨大地震が多く発生している。
- 4.地震が起こると、地震波が広がっていき、観測地点の揺れの強さは震度で表される。また、地震の規模を表す尺度として、マグニチュードが用いられる。
- 5.我が国では、震源に近い観測点に初めに到達するS波の情報を解析して緊急地震速報を提供しており、特に直下型地震では、主要動が到達する前に速報を提供できる。

問7 20世紀に発生した戦争や紛争に関する記述として最も妥当なのはどれか。

- 1.「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれたバルカン半島でオーストリアの帝位継承者が暗殺された後、第一次世界大戦が勃発し、ヨーロッパでは、国力の全てを要求する総力戦となった。
- 2.ドイツでナチ党の一党独裁体制を確立させたヒトラーは、第二次世界大戦が勃発すると、対外膨張を目指し、再軍備を宣言するとともに、エチオピアに侵攻した。
- 3.フランスの委任統治領のパレスチナでは、第二次世界大戦後、ユダヤ人によるイスラエル建国にアラブ諸国が反対し、第一次中東戦争が勃発したため、石油危機が起こった。
- 4.米ソ両国に分割占領されていたベトナムでは、フランスの仲裁で南北統一が実現したが、ベトナム戦争が勃発した結果、パリ和平協定により再び南北が分断された。
- 5.独自の社会主義建設を進めていたユーゴスラビアは、ソ連との間で武力衝突が発生した結果、解体させられ、ソ連の独立国家共同体へ組み込まれた。

問8 次のA～Eの慣用句のうち、その意味が妥当なもののみを挙げているのはどれか。

A:耳をそろえる・・・金額を不足なくとりそろえること

B:口を糊する・・・余計なことを言わないようにすること

C:腹を据える・・・心中に何かたくらみがあること

D:爪に火をともし・・・過度に儉約すること

E:手に余る・・・じっとしてられないこと

1.A、B

2.A、D

3.B、C

4.C、E

5.D、E

問9 貿易に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1.関税とは、輸入品に課せられる税であり、各国は、世界貿易機関(WTO)に加盟する際に、関税を即時撤廃することとされている。

2.ダンピングとは、国家が、他国への技術流出を防止するために、輸出品に対して最低販売価格を設定する輸出自主規制のことをいう。

3.貿易摩擦とは、繊維製品や自動車などの発展途上国向けの輸出をめぐり我が国と米国との間で生じたような、同種の製品を輸出する国の間の競合をいう。

4.保護貿易政策とは、国家が、国内の産業を保護・育成するために、輸入品に対して関税を高くしたり、輸入量の規制を行ったりすることなどをいう。

5.セーフガードとは、災害などにより、食料等の需要が世界的に急増した際に、発展途上国が食料などを優先的に輸入することのできる制度をいう。

問 10 我が国の株式会社に関する記述として最も妥当なのはどれか。

- 1.証券取引所を通じて株式を発行しなければ、株式会社を設立することは一切できず、上場しなければ、株式を売買することは一切できない。
- 2.株式会社は、一定期間における売上高から生産に伴う費用や M&A の費用を差し引いて残った利潤を、全額株主に配当することとされている。
- 3.株式会社において、その経営が大株主など資本の所有者ではなく、専門的な知識や能力を持つ専門経営者に委ねられることを、所有と経営の分離という。
- 4.株式会社において、株主は、会社が倒産した場合に出資額以上の支払いを求められることがあるため、一定の要件を満たす場合には、所有株式数に左右されない等しい議決権が与えられる。
- 5.株式会社がスポーツへの支援やディスクロージャーなど、法令で求められていない社会貢献活動を行うことをコンプライアンスという。

問 1	3
問 2	5
問 3	4
問 4	3
問 5	5
問 6	4
問 7	1
問 8	2
問 9	4
問 1 0	3